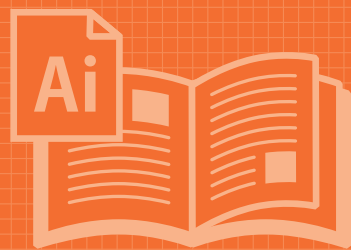


## Lesson 1 作業を始める前に 作業環境を整える

作業環境を整えておくと、効率的な作業を行えるだけでなく、さまざまなトラブルを未然に防ぐことができます。このセクションでは、操作に関する設定や、カラー、フォント、画像などの設定について解説します。

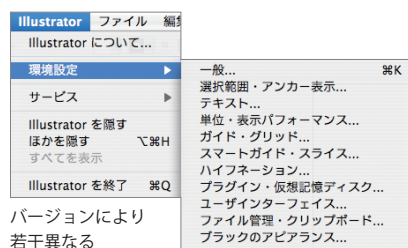


### ▶ レイアウトを作り始める前に

#### ▶▶ 環境設定

Mac OS X対応のバージョン10以降から、環境設定は [Illustrator] メニューに格納されています。Windows版ではそれよりも前のバージョンと同じく [編集] メニューにあります。

目的に合わせて設定を変更することも多いので、



バージョンにより若干異なる

Lesson 2～Lesson 7での作例の制作過程で変更が必要な場合はそちらで触れます。

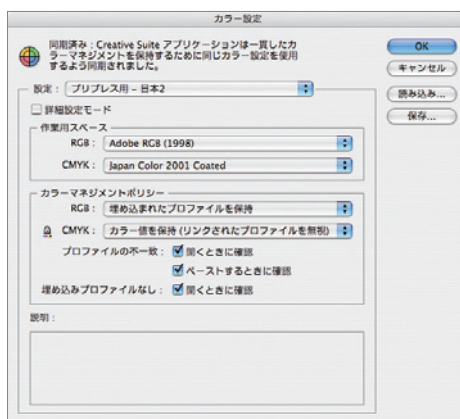


[一般] では、カーソルキーでの移動距離である [キー入力] を初期設定の0.3528mm (1pt) から、0.1mmや0.25mmなどに設定しておくほうが使いやすい。古いバージョンの [エリア選択] に相当する [オブジェクトの選択範囲をパスに制限] は、CS2以前では [一般] で、CS3では [選択範囲・アンカー表示] で変更可能

#### ▶▶ カラー設定

IllustratorやPhotoshopを同じカラー設定で使用するには、[編集]→[カラー設定]での設定を統一する必要があります。CS以降のバージョンからは、Adobe Bridgeを起動し、[編集]→[Creative Suiteのカラー設定]を使うことで簡単に同期できます。一般的な印刷物の制作には、「プリプレス用-日本2」を選択しておきます。

Illustrator CS3のカラー設定ダイアログ



Bridgeのカラー設定ダイアログ

### 注意! CSのカラー設定

CSのバージョンでは「プリプレス用-日本」が登録されており、CMYKの作業用スペースには「Japan Standard v2」が選択されています。そのため、CSで作成したファイルをCS2以降で開くと [埋め込まれたプロファイルの不一致] ダイアログが表示されます。

ファイルを作成したときのカラー設定を優先する場合は [作業用スペースの代わりに埋め込みプロファイルを使用する] を選択します。[ドキュメントのカラーを現在の作業用スペースに変換] を選択すると、プロファイル変換が行われます。



#### ▶▶ フォントについて

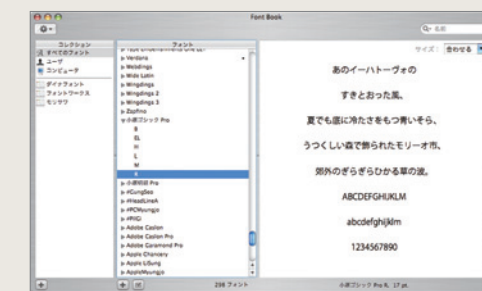
Illustratorで使用できるフォントは、システムにインストールされているフォントの他に、アプリケーションの情報が保存されているフォルダでも認識させることができます。この場合、Mac OS Xでは「ラ

イブラリ」→「Application Support」→「Adobe」→「Fonts」に、Windowsでは「Program Files」→「Common Files」→「Adobe」→「Fonts」にフォントデータを格納します。

### Memo! フォントのインストール

Mac OS Xではシステム、すべてのユーザー、各ユーザーごとにフォントを管理することができます。「Macintosh HD」→「システム」→「ライブラリ」→「Fonts」は、OSが必要としているフォントが入っていますので、もともと入っていたフォントを削除しないようにしましょう。「Macintosh HD」→「ライブラリ」→「Fonts」内のフォントは、すべてのユーザーが使用できませんが、「ユーザー名」→「ライブラリ」→「Fonts」内にフォントをインストールすると、特定のユーザーのみが使用できるフォントになります。Mac OS X 10.3以上のバージョンであれば、FontBookというフォント管理アプリケーションがあり、「Fonts」フォルダ以外に置かれているフォントでも認識させることができ、フォントデザインの確認もできます。

また、Windows XPでは「コントロールパネル」→「フォント」



にフォントをコピーすると認識されます。Windows Vistaではコントロールパネルを開き、[デスクトップのカスタマイズ]から「フォント」を表示できます。